2019 年度 JASMIM 助成イベント　実施報告

Martin Piliponsky　ダンスワークショップと即興セッション「みえないものとおどる Dancing with Invisible」

寺内 大輔

実施日：2019 年 8 月 16 日
開催場所：Cafe & Bar，LOG
助成金：1 万円

今度日本に行く，一緒になにかやりたい――見知らぬ海外のアーティストから突然連絡を頂くことがある．アルゼンチンのダンサー，Martin Piliponsky とのイベントもそんな連絡から始まった．彼は，ダンサーの Valeria Primost から私を紹介してもらったという．FACEBOOK で彼のページを見ると，Valeria のほかにも数名，共通の友人がいた．狭い世界である．

彼のウェブサイトや，そこに公開されている動画を観ながら，共演の可能性を検討した．ダンスに疎い私は，彼がプロフィールに記している「ヘブライの民族舞踊」の影響を動画から見取ることはできなかったものの，しなやかに流れる動きと空間の使い方をおもしろく感じた．気づけば私は，彼とどんな風に共演できるかを想像していた（私にとっての共演はこのときから始まっていたようなものである）．ミュージシャンの三宅珠穂，ダンサーの玖島雅子に連絡し，企画メンバーに加わってもらった．イベントは，ワークショップと参加自由のコンサートの 2 本立てにすることが決まった．

会場は，平和公園にほど近い Cafe & Bar，LOG，目立つ看板などがないため，「中華料理佳里の 2 階」というヒントがなければ辿り着けない．広くはないが素敵な空間，外に面したガラスがアムステルダムの Bimhuis を彷彿とさせた．マスターとおしゃべりをしていると，共通の知り合いのミュージシャンが話題にのぼった．狭い世界である．だが，思えば，私はこれまで，この狭い世界の輪がじわじわとつながっていくことに喜びを感じていたような気がする．今回の「みえないものとおどる」も，イベントとしてはごく小さなものだが，こうした地味な活動をとおして知り合いが少しずつ増え，狭い世界が狭い世界のままでじわじわとつながっていくのは，なんだか自分に合っているように感じるのだ．

8 月がやってきた．彼はインド，中国，マレーシアを経て，日本に到着．ツアー慣れしているようで，会場近くの宿を自分で手際よく見つけていた．当日の集合時刻は 11 時だったが，その時刻よりも前に一人で広島市内観光を楽しんでいたそうだ．

ワークショップ参加者は 18 名，初心者もいれば経験豊かな人もいた．東京のミュージシ

ャン，森田智子が九州ツアーの帰路に駆けつけてくれたり，パリを拠点に活動するダンサーの Ismaera が偶然広島に居たために飛び入り参加してくれたりもした．15 時から始まった 2 時間程度のワークショップでは，短いワークをいくつも行った．Martin のポリシーは「教えないこと」．例として「こんな風にうごくこともできるね」と示してくれることはあっても，そのあとは「ok, good luck!」と言って参加者にどんどんやらせる，そういうスタイルだった．体を動かす際，また空間を感じる際の意識自体を意識することによって，動きの様相が変わっていった．初心者も，経験豊かな人も，それぞれに「自分の」表現を磨いていけたように感じられた．私も含め，参加者はとても楽しんだ．

ワークショップ終了後，19 時からの公開コンサートに出演する希望者を確認したところ，驚くことに，ワークショップに参加したメンバーのほぼ全員が手を挙げた．始まったセッションは 90 分間途切れることはなかった．全員が全体の空気を敏感に感じつつ，踊ったり踊らなかったり，音を出したり出さなかったり，山あり谷あり，緊張感あり，笑いありの，飽きることのないパフォーマンス，まるで魔法のような 90 分だった．終演後はお好み焼きで打ち上げた．

内容としては素晴らしかったものの，収支として少し赤字になってしまった．そのため，JASMIM 助成金として 1 万円助成していただいたのは，たいへんありがたかった．心から謝意を表したい．

Martin Piliponsky ウェブサイト　https://www.martinpiliponsky.com/

イベントのチラシ

2021 年 2 月追記：
会場となった LOG は，2020 年 12 月に惜しまれつつも閉店された．残念である．